



校長通信

発行 校長 大田 一昭
〒384-0023
小諸市東雲 4-1-1
TEL 0267-22-0216
FAX 0267-25-3801
E-MAIL ota-kazuaki-r@pref.nagano.lg.jp

お願い この新聞は保護者の皆様にお渡しください

小諸高等学校 卒業式

卒業おめでとう 高々と帆を揚げよ プロフェッショナルになれ!!



三年生へ 本日、小諸高等学校の三年間を終え高校生活に別れを告げるときがやって参りました。今日の卒業式は小諸の地で学んだみなさんが、それぞれの目的地を目指して新たな旅の始まり・船出のときです。

これから君たちはまだ見たこともない大海原にできるようとしています。当然、毎日が晴天ではありません。雨の日もあれば雪も降り、大嵐に直面する日だってあるでしょう。そんなときも、いままで同様「夢」「希望」をもって乗り越えてください。

最初の一つは「挑戦の気持ち」を忘れるなということです。

常に仕事に対しても、「挑戦」の気持ちを持って取り

組んでほしいのです。「職業のプロ」になる挑戦をしてほしいということです。

二つ目は「感謝の気持ち」持てということです。

みなさんには『有り難う。』の言葉と感謝の気持ちを大切にこれからも生きてほしいのです。「一人で生きているんじゃない生かされているんだ」こんな気持ちになれば一人前です。これからは人生の荒波に一人こぎ出していくわけですが風のある日は高く帆を上げてまい進し、嵐の日は帆を下ろしじっと耐える。自分の夢を追い求めたすばらしい航海(人生)を期待して別れとします。

吹奏楽アンサンブルコンテスト 東海大会出場

県大会を勝ち抜き 東海大会(愛知県よしみ市)金賞、銀賞を受賞しました。出場22チーム

サクソフォン四重奏 金賞(5位)

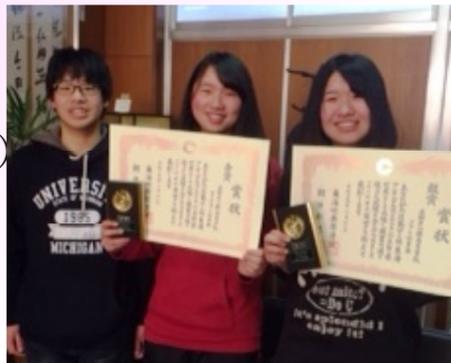
小林 純菜(2-6) 宮坂 佳奈(2-6)

轟 比音梨(1-5) 酒井 理帆(2-4)

フルート四重奏 銀賞

鳥羽 そよか(2-6) 八倉巻 杏菜(2-1)

両川 よし野(2-6) 坂口 歌菜(1-5)



石倉部長 酒井さん 両川さん

「辛いことも楽しいことも沢山ありました。東海大会出場で自分自身大きく成長できたかなと感じています。日頃支えてくれた仲間、先生方に感謝しています。」

酒井 理帆(2-4)

「自分たちで頑張ることの大切さを学びました。KWO(小諸吹奏楽)の仲間たち全員が会場で応援してくれました。仲間の大切さを本当に感じた大会でした。」

両川 よし野(2-6)

卒業生へ
学校という植木鉢に
学習という種をまいて
宿題という水をやり
継続という肥料をまき
仲間という太陽の光を浴びて
卒業までに大きな花を咲かせる
学は心なり
心正しからざらば
学また正しからず
苦しいこともあるだろう
言いたいこともあるだろう
腹の立つこともあるだろう
不満なこともあるだろう
泣きたいこともあるだろう
それらをじっとこらえるのが人間の就業である
成功は苦境の日々にはじまり
失敗は得意の時に原因がある
高い目標を完遂する過程を通じ人間は成長する
不満を言うな
足りないのは己の知恵と行動だ
時間を蓄積することはできない
一日一時間一分をどのようにに生かすかが
人生の勝負の分かれ目だ
厳しさをなくして執念なし
行動をなくして成長なし

濃密な時間 写し続けた青春



高校生デジタルフォトコンテストで準グランプリに選ばれた樋沢さんの作品「青春年鑑」

全国高校生デジタルフォトコンテスト
小諸高 樋沢さん

全国的な高校生から高校生活をテーマに写真作品を募集した第7回高校生デジタルフォトコンテスト(日本工学院)オンライン主催で、小諸高(小諸市)3年の樋沢誠人さん(1)北佐久郡軽井沢町三石の作品が最高賞に次ぐ準グランプリ(2点)に選ばれた。樋沢さんは「何げない日常の人の表情を表現したい」と話し、さらに写真を追求する意欲を燃やしている。

樋沢さんは1年生の夏に同校写真部に入ってから写真撮影を開始。黙々と素振りをする野球部員や、図書室で真面目に勉強する生徒らを被写体にし、「何を思っているのか想像しながら撮るのが好き」とのめり込んだ。

受賞作「青春年鑑」は、部に受賞作品展で展示される。入賞14作品は今年16、21日に東京都新宿区のオリンピックプラザ東京シヨールームで開催される。

長たつた今年7月の同校文化祭での1枚だ。撮りためてきた写真に「目の目を見せたい」と、約400枚を黒板に貼って展示。その前に立った自分をセルフタイマーで写した。記念写真のつもりだったが、小諸駅前なじみの写真店主に「この写真いいよ」と褒められて応募作品にした。

コンテストは7、8月に寄せられた1312点を写真家ら4人が審査。樋沢さんの作品は「写真部員として過ごした濃密な時間の軌跡」が感じられると評価された。樋沢さんは「被写体になってくれた皆のおかげ。写真を通じ人と関わるのが楽しい」と話す。

高校生デジタルフォト コンテスト 準グランプリ



樋沢 誠人 3-4

おめでとうございます。

県の弁論大会、小諸観光局の意見発表に参加して堂々と発表しました。進路は公立化になった長野大学へ進みます。

税に関する「高校生の作文」

佐久地区納税協団体協議会

会長賞 受賞 おめでとうございます

3-1 鈴木都月さん

